

住宅設備・建材・資材



ポラスグループ
代表 中内 晃次郎氏

ポラスグループ（埼玉県越谷市、中内晃次郎代表）は8月22日、グループのポラテック西日本が佐賀県唐津市にプレカット工場を新設する「進出協定」を、佐賀県および唐津市と結んだ。「進出協定」は唐津市内で、2017年5月に月産で木造戸建住宅約300棟規模のプレカット材加工能力を持つ工場を稼働させるもの。グループの九州へのプレカット工場新設は13年の富士工場（静岡県）竣工時点で「18年をメドに稼働させる」と既に構想を明らかにしており、グループの規定路線だった。その後、進出時期は需給環境の変化などから20年へ先延ばしにされたが、4月の熊本地震への被災対応で前倒した。グループのプレカット市場シェア（加工実績）は現在11%強と全国でダントツのトップだが、20年までに20%へと、さらにそのシェアを倍に高める方針だ。進出協定式における質疑応答の場で、グループのプレカット事業全体の方向性と九州のプレカット事業のポイントを中内代表に質問した（以下の一問一答中のカッコ内の表現は住宅産業新聞社による文意の補足）

「新築市場は将来規模縮小が確実視されている。そのような状況下で大規模なプレカット工場を新設するのは、どのような理由からか。」
中内 おそらく日本は全国的に、どこも市場が小さくなっていくと考える。ただ、小さな市場でも「ゼロ」にはなら

トップに聞く

ない。プレカットというそういった工場は淘汰され、事業は技術革新の可能性を残してしまおうと考える。非常に多く持っておく。逆を言うならば少々。我々ポラスグループは遅れている。（プレカット）大工職人を育てる学校もト加工工場の機械設備運営している。（先程の）にしようも自動車やオートバイのような産業と比べ、それは、「市場が小さい」と、まだまだ改善の余地がある。プレカット加工工場（プレカット加工工場）の機械を常に更新させ、なるより先に、（現在働いている大工職人の高齢化の進展や、大工職に就

プレカット事業

「シェアトップ」の地位より強化 生産性向上させ木造業界に貢献

る機械へと、進化させる。余地がある。その進化は誰かがやらなければならないという。我々がそのような新しい作り方、機械の開発を行うことで、業界全体、木造住宅全体の合理化や生産性向上に寄与できると考えている。おそろく（生産性向上の取り組みを行わず）、20年前、30年前の機械で、競争力を持った会社は、競争力がなくなると、（市場規模の縮小により

始まる）淘汰の中で最後以外のサービス、単に木に淘汰される立場だと思をカットして渡すだけで、私どもは常にプレカット業界で最後に淘汰され、プレカット業界で最後に淘汰される位置にいたいと考えている。その意味で市場の将来はバラ色ではない（構造強度が数値として担保された安全な住宅をエンドユーザーが選べる環境を作ることが、私どものやらなければならない仕事ではないかと考えている。その意味で、プレカット

住宅事業会社は供給する算や省エネの計算といった設計業務を、積極的に造計しており、また、独自の耐震シミュレーション。――中大規模木造建築、需要が拡大の兆しを見せ、今後の九州のプレカットでも首都圏などで中大規模木造の建築事業を行う。九州の中大規模木造建築市場を、どのよう

南部や東京エリアに比べ、九州地方はおそろくこれから市場が非常に大きくなるのではないかと、人口が過密な地域は防火・耐火面の規制があり、木造で建築することはなかなか難しいが、土地が比較的広く、防火・耐火の規制がなく、低層の建築物が多いところは、木造で、設備との取り

合いも住宅とは違う。木造は頑張っても（住宅建築事業にはな4階建て以上は防火面）そういったノウハウの規制で難しいため、それを提供できる企業が求められると思う。その意味で非住宅・中大規模（木造）建築について、お話を頂ければ積極的にやっていきたいと思っており、また、そういった需要を喚起する仕事も、しっかりやらせて頂ければいいと考えている。



8月22日の協定調印式に臨むポラスグループの中内晃次郎代表（左から二人目）